

第2次長久手市観光交流基本計画

長久手市

平成27(2015)年3月

第2次長久手市観光交流基本計画 目次

はじめに

第1章 計画見直しの背景と趣旨

1 計画見直しの背景	1
2 計画見直しの趣旨	3
3 計画の位置づけ	3
4 計画期間	4

第2章 長久手市の観光交流の現状と課題

1 観光交流の現状	5
(1) 施設型観光交流資源	
(2) 活動型観光交流資源	
(3) アンケート調査の結果	
(4) 「ながくて幸せ実感調査」にみる地域の宝	
(5) ヒアリング結果	
2 これまでの取り組みと課題整理	20

第3章 今後の観光交流の可能性

1 視点と考え方	25
(1) 「観光交流」の視点と考え方	
(2) 長久手市の立地特性から「観光交流」を考える	
(3) 「観光交流」についての新たな視点	
2 長久手オリジナルの観光交流とは	29

第4章 観光交流基本計画

1 基本方針	30
(1) 基本理念	
(2) 観光交流まちづくりの意義	
(3) 観光交流まちづくりの基本方向	
2 観光交流の推進方策	33
(1) ながくて「いい日常」観光の展開イメージ	
(2) 市の関連計画との連携	
3 推進に向けて	35
(1) 市民の参画と協働	
(2) 観光協会の発足に向けて	

参考資料	39
------	----

はじめに

本市においては、平成17（2005）年に本市をメイン会場に開催された愛・地球博を契機に観光交流の機運が高まり、この間観光交流事業の実施主体となる長久手市観光交流推進会議（以下「観光交流推進会議」という。）を設立するとともに、平成19（2007）年には市の観光交流施策の指針となる観光交流基本計画を策定し、官民が一体となっておもてなしに取り組み観光交流を推進してきました。

この第1次観光交流基本計画では、基本理念目標像を《あったかいふれあいのある、居心地のいいまち長久手「住んでみて！ 訪れてみて！ いいまち ながくて」》と定め、観光交流によるまちづくりに取り組んできました。

第1次観光交流基本計画策定から7年が経過し、社会経済情勢の変化に対応するため、今回基本計画を改訂することとなりました。観光交流事業関係者や市民、有識者等で構成する観光交流基本計画改訂検討会の議論においては、この基本理念目標像は現状においていささかも衰えるものでなく、今後も継続して掲げることが決まりました。このことは、この間の本市における観光交流事業関係者や市民のみなさんの観光交流推進に対する不断の努力が評価されたものと認識しています。

さらに、今回の基本計画改訂では、本市の人口が減少に転じる2050年を想定し、長期的な視野で、観光交流によるまちづくりを考えることや、時代の変化に応じて市民の日常生活や活動を地域資源と捉え、これを磨き情報発信するという長久手のオリジナル性を活かした観光交流まちづくりが、テーマとして掲げられました。

本市では、かつて市民のみなさんが地域で担っていた役割や居場所を取り戻し、互いが助け合うことで生きがいを持って充実した日々を過ごす「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」を標榜しており、まさに今回の改訂を経た第2次長久手市観光交流基本計画がその実現の一助となるものと期待しています。

最後に、基本計画改訂の過程でご尽力、ご協力いただいた関係者や市民のみなさんに心から感謝を申し上げますとともに、改訂作業に携わった多くのみなさんのご努力に敬意を表します。

平成27(2015)年3月

長久手市長
吉田一平

第1章 計画見直しの背景と趣旨

1 計画見直しの背景

長久手市観光交流基本計画（以下、「基本計画」という。）の改訂にあたり、前基本計画策定時の平成19（2007）年から、この7年の間、時代状況が大きく変わりました。

愛知県では、平成17（2005）年の長久手市内の愛知青少年公園（当時）をメイン会場とした愛・地球博が開催されて以降、観光庁がビジット・ジャパンを推進する中、平成20（2008）年のリーマンショックや平成23（2011）年の東日本大震災は、観光だけでなく社会的に大きな影響を与えました。

また、最近の時代背景として、少子化の進展から人口減少社会となり、さらに高齢化が進み、地域経済へ少なからず影響があることが予測されています。自治体においては、税収減少につながり、高度経済成長時代に建設した公共施設も一斉に老朽化を迎える等行政全般の維持にかかる課題が出てきます。課題解決のため、市民の参画拡大と新たな担い手が公的役割を担う機会の増加が言われています。また、平成39（2027）年のリニア中央新幹線の開業を控え、首都圏とのつながりが深まる期待感と名古屋圏でのストロー現象が懸念されます。グローバル化の進展に伴い、価値観やライフスタイルの多様化も言われています。

このような時代背景において、観光と交流は、社会の様々な側面に影響され、また同時に結びつきも強め、多面的に展開すると予想されます。

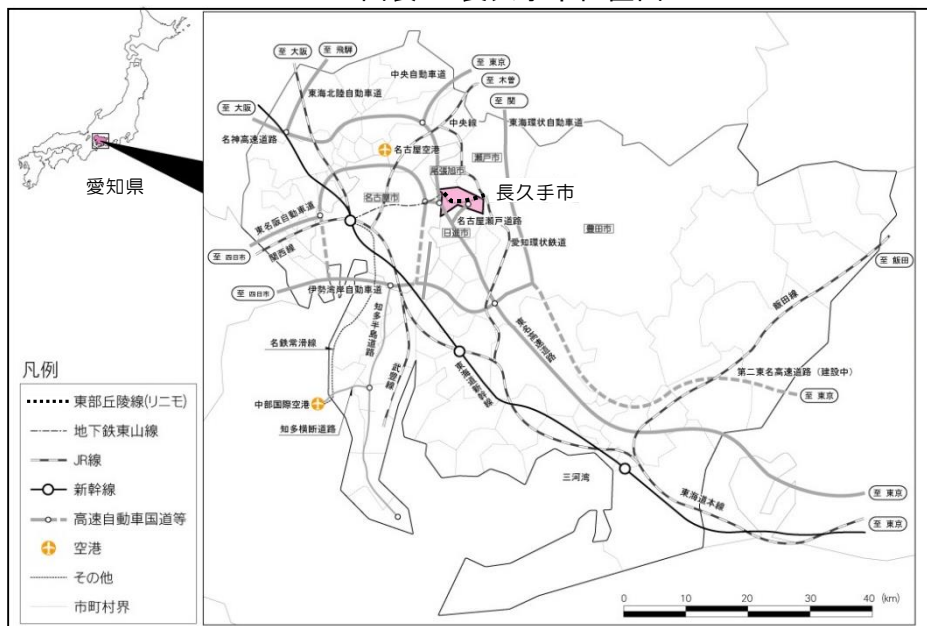
■長久手市の概要

本市は、名古屋市東側に位置し面積は21.55平方キロメートル、人口約5万5千人のまちです。

市の中央部を東部丘陵線（リニモ）（以下、「リニモ」という。）が走っており、西は名古屋市営地下鉄藤が丘駅、東は愛知環状鉄道八草駅と乗り換えもできます。車でのアクセスも東名高速道路名古屋ICも近く、名古屋瀬戸道路長久手ICがあり、交通の便に恵まれています。最寄の名古屋市営地下鉄藤が丘駅より、リニモに乗って長久手古戦場駅まで7分で到着する事が出来ます。

天正12（1584）年に徳川・豊臣両軍があいまみえた激戦の地（小牧・長久手の戦い）として名を知られた本市は、平成24（2012）年1月に市制を施行して現在の長久手市となりました。名古屋市に隣接した西部は住宅地・商業施設等が多く都市化が進んでいます。また、東部は今なお自然を多く残しており、市街化された都市と自然豊かな田園風景の両面を併せ持っています。

図表1 長久手市位置図



■国・県・隣接する名古屋市等の動向

○国の観光立国の基本理念

国では、観光立国の実現を国家戦略として位置づける観光立国推進基本法が成立、施行され、その基本理念として「住んでよし、訪れてよしの国づくり」があげられています。地域を愛し誇りを持った暮らしが人を呼ぶとして、これまでの施設型観光から、地域の特性を活かした体験などを通して観光を進めていこうとしています。地域のブランド化、ニューツーリズム、観光イノベーション、国際観光振興などの視点から体験型観光に取り組むことになり、見る観光から、地域特性を活かした「食べる、味わう、丸ごと地域を楽しむ複合型ツーリズムへ」変化していると言えます。

観光立国基本理念

「住んでよし、訪れてよしの国づくり」

地域における創意工夫を生かした主体的な取組みを尊重しつつ、

地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行を促進することが、将来にわたる豊かな国民生活の実現のため特に重要である

○愛知県における観光動向

愛知県の観光基本振興計画においては、愛知県の工業出荷額等が36年連続全国1位という特徴を活かした産業観光、三英傑の出身地であり江戸時代には尾張・三河から全国に赴いた大名の出身地としての武将観光、アジアからの観光客を受け入れる国際観光の3つを中心に各種事業を展開するとしています。

県観光振興基本計画

国際観光、産業観光、武将観光を中心に

国内外からの観光客の誘致促進のための各種事業を推進

- ・観光プロモーション活動と新たな観光資源づくり
- ・旅行者受入体制の充実
- ・イベント・コンベンション等(MICE)の誘致・開催の推進

○隣接する名古屋市の観光

名古屋市においては、市の特性を活かし、名古屋らしい魅力の創出による歴史観光、都市観光を中心に、ニューツーリズムへの取り組みやプロモーション推進により外国人観光客を含めた受け入れ態勢の整備、また中部圏の昇龍道と連携した広域観光を進めています。

飛躍する名古屋の観光～世界的な交流拠点都市をめざして～

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 名古屋らしい魅力の創出 | ①「歴史観光」の推進 |
| | ②「都市観光」の推進 |
| 2. 観光プロモーションの推進 | ①観光プロモーションの推進と情報発信力の強化 |
| | ②教育旅行の誘致・MICEの推進 |
| 3. おもてなしの充実 | ①観光案内の充実とホスピタリティの向上 |
| | ②観光客受入基盤の充実 |
| 4. 広域観光の推進 | |

2 計画見直しの趣旨

本市は、平成19（2007）年に基本計画策定後、「観光」というイメージの域のみにとられることなく、「観光交流」、「観光交流まちづくり」として、観光施策に取り組んできました。

最近の社会情勢から、人々の交流がコミュニティを育み、このきずなが災害に強いまちや社会へ成長していく要因の一つとなっています。このようなことから、基本計画改訂（第2次長久手市観光交流基本計画）作業は、先の基本計画の意義を以下のように引き継いで進めていきます。

「観光交流によるまちづくり」とは、本市全体の魅力を高めることにより、市民が郷土に誇りを持ち、来訪者が何度でも訪れたいくなるような活力あるまちを目指すものです。このため、点在するソフト・ハードの特色ある地域資源を有機的に結びつけ、地域が一体となって主体的に地域特性を生かすまちづくりを、観光交流の視点から行うというものです。

本市は、歴史、自然などの中で生活文化を育み、それらを含め史跡や施設など特有の観光交流資源を有しています。また、愛・地球博を機にボランティア活動の機運の高まりが見られる等、「観光交流によるまちづくり」を進めるための基盤が整い始めていると考えられます。愛・地球博を経験した今、「観光交流によるまちづくり」の考え方を広め、機運をさらに高めるとともに、さまざまな施策に取り組んでいくことが重要な時期となっています。

そこで、この基本計画改訂は、本市における「観光交流によるまちづくり」の指針を示すとともに、さまざまな施策や事業を展開していくための基本的な方向を示すものとしします。

3 計画の位置づけ

この計画は、平成20（2008）年度に策定された「第5次長久手市総合計画」の下位計画として、また、平成24（2012）年に制定された「新しいまちづくり行程表」に基づいた計画として位置づけます。

第5次総合計画においては、市の将来像として目指す「人が輝き 緑があふれる 交流都市長久手」実現のため、5つの基本方針が定められました。観光交流における基本方針は、「リニモでにぎわい交流するまち」とし、施策実施のための関連計画として「観光交流基本計画」を策定しました。

また、「新しいまちづくり行程表」を平成24（2012）年度から27（2015）年度までの4年間で定め、かつて市民が地域で担っていた役割や居場所を取り戻し、互いに助け合うことで生きがいを持って充実した日々を過ごす「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」を目指しています。

■第5次長久手市総合計画

計画期間：平成21～30（2009～2018）年度の10年間

リニモで創り出す新たな交流でにぎわいが生まれ、休日は豊かな自然や土とふれあい、心も体もリフレッシュ。子どもからお年寄りまでが元気いっぱい活気にあふれ、～住んでみたい、ずっと住みつけたい～と誰からも親しまれるまちを目指しています。

将来像「人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手」

■新しいまちづくり行程表

本市では、かつて市民のみなさんが地域で担っていた役割や居場所を取り戻し、互いに助け合うことで生きがいを持って充実した日々を過ごす「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」を目指していきます。この目標に向かって、市民のみなさんと行政がともに汗をかきながら、個々の取組を積み重ねて「新しいまちのかたち」を一緒につくっていく道しるべを示しています。

1 フラッグ1 つながり「一人ひとりに役割と居場所があるまち」

施策：住民の力を活かした新しい仕組みをつくる

取組例：大学連携の推進

リニモの集客力アップ（古戦場駅周辺、公園西駅周辺の市街化整備）地域共生ステーションの整備、住民参画交流会議など

2 フラッグ2 あんしん「助けがなかったら生きていけない人は全力で守る」

3 フラッグ3 みどり「ふるさと（生命ある空間）の風景を子どもたちに」

施策：地球にやさしい低炭素型のまちをつくる

取組例：芸術文化活動の支援

地域活動の支援

文化芸術施設のネットワーク化

アートマネジメントによる地域の文化リーダーの養成など

4 計画期間

この計画は、長期的な視点として2050年の長久手市の人口減少転換期を見据えながら検討しました。今後も社会情勢は変化していくものとして、第2次基本計画の期間は、平成27（2015）年度から平成36（2024）年度までの10年間とします。ただし、社会情勢などの変化を踏まえ、中間年等で適宜見直しを行うものとします。

第2章 長久手市の観光交流の現状と課題

1 観光交流の現状

本市においては、各種の歴史や文化、福祉、農などの関連施設を中心にした市内外から集客する観光交流と、イベントやまつりなどを中心とした活動・体験型の観光交流が展開されています。

各種のイベントなどは基本計画に基づくものと、それ以外の市内主要施設などにおいて集客や市内の交流、活動の発信等を行うイベントが多数開催されています。

(1) 施設型観光交流資源

① 自然・歴史

本市は概ね、西部の土地区画整理事業によって形成された住宅市街地と、東部の里山や、その周辺に形成されていた田園、集落とから構成されています。そのため、東部の里山等の自然や田園風景及びそれと近接した住環境が、市の自然系資源のベースとなっています。

平成18(2006)年には、現在の市域を持つ長久手村が誕生して100年を迎えました。地域の歴史は古く、戦国時代の「長久手古戦場」や、農村の豊年祭りだった「警固祭り(オマント)」、前熊の「天王まつり」等の歴史・文化財が保存・伝承されています。



市東部の田園集落



香流川緑地



色金山歴史公園



警固祭り(オマント)

②観光交流施設

観光交流施設としては、「長久手温泉ござらっせ」や「あぐりん村」、「愛・地球博記念公園(モリコロパーク)」(以下「モリコロパーク」という。)、「トヨタ博物館」、「名都美術館」などがあり、市内外からの集客施設となっています。また、音楽・演劇・美術等の多彩な芸術文化イベントを開催し、市民等の芸術文化活動の拠点となっている「長久手市文化の家」(以下「文化の家」という。)があり、周辺の図書館通り付近には店舗が多く立地しています。また、全国から学生を集め芸術家を育てる愛知県立芸術大学(以下、「県立芸大」という。)を始め、市内には四つの大学が立地し、活気にあふれています。



モリコロパーク(自然体感遊具)



トヨタ博物館



長久手温泉ござらっせ



文化の家

③交通基盤

愛・地球博の開催を契機に整備されたリニモは、国内初の磁気浮上式リニアモーターカーの営業路線として、また環境に配慮した都市交通の視点からも、国内外の専門家から高い評価を得ており、これ自体が観光資源であるといえます。また、コミュニティバス「N-バス」が市内を走っています。



リニモ

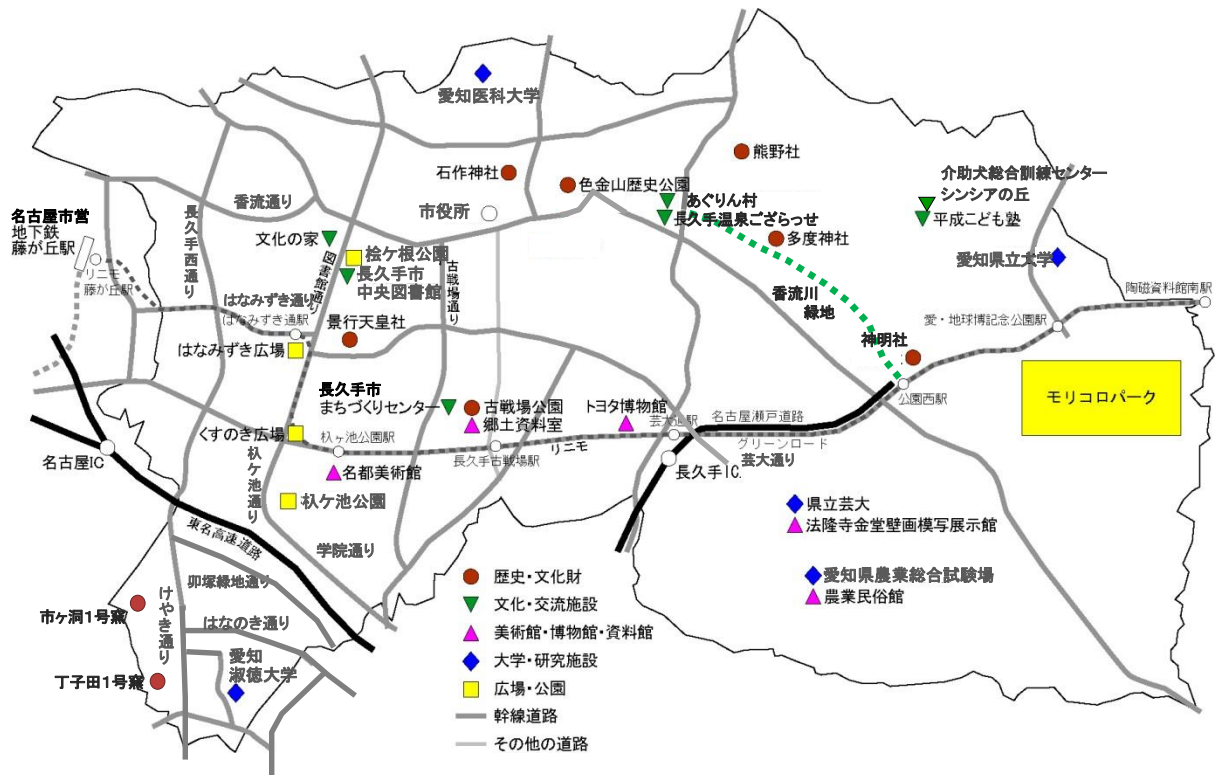


N-バス

図表2 市内の主な観光交流資源

分類	主な資源
自然資源	里山、田園、河川
歴史・文化財	長久手古戦場史跡、警固祭り(オマント)、棒の手、前熊の山車、地域の神社(石作神社、景行天皇社、熊野社、多度社、神明社)、丁子田1号窯・市ヶ洞1号窯出土刻銘須恵器など
文化・交流施設	文化の家、長久手市中央図書館、長久手温泉ござらっせ、あぐりん村、平成こども塾丸太の家、長久手市まちづくりセンター、介助犬総合訓練センターシンシアの丘
美術館、博物館、資料館	トヨタ博物館、名都美術館、郷土資料室、法隆寺金堂壁画模写展示館(県立芸大)、農業民俗館
大学、研究施設	県立芸大、愛知県立大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、愛知県農業総合試験場
公園、緑道、広場	モリコロパーク、杣ヶ池公園、桜ヶ根公園、香流川緑地、せせらぎの径、はなみずき広場、くすのき広場
交通基盤	リニモ、N-バス、グリーンロード、長久手西通り、香流通り、はなみずき通り、杣ヶ池通り、図書館通り、古戦場通り、芸大通り、けやき通り、はなのき通り、卯塚緑地通り、学院通り、長久手IC

図表3 主な観光交流施設の分布

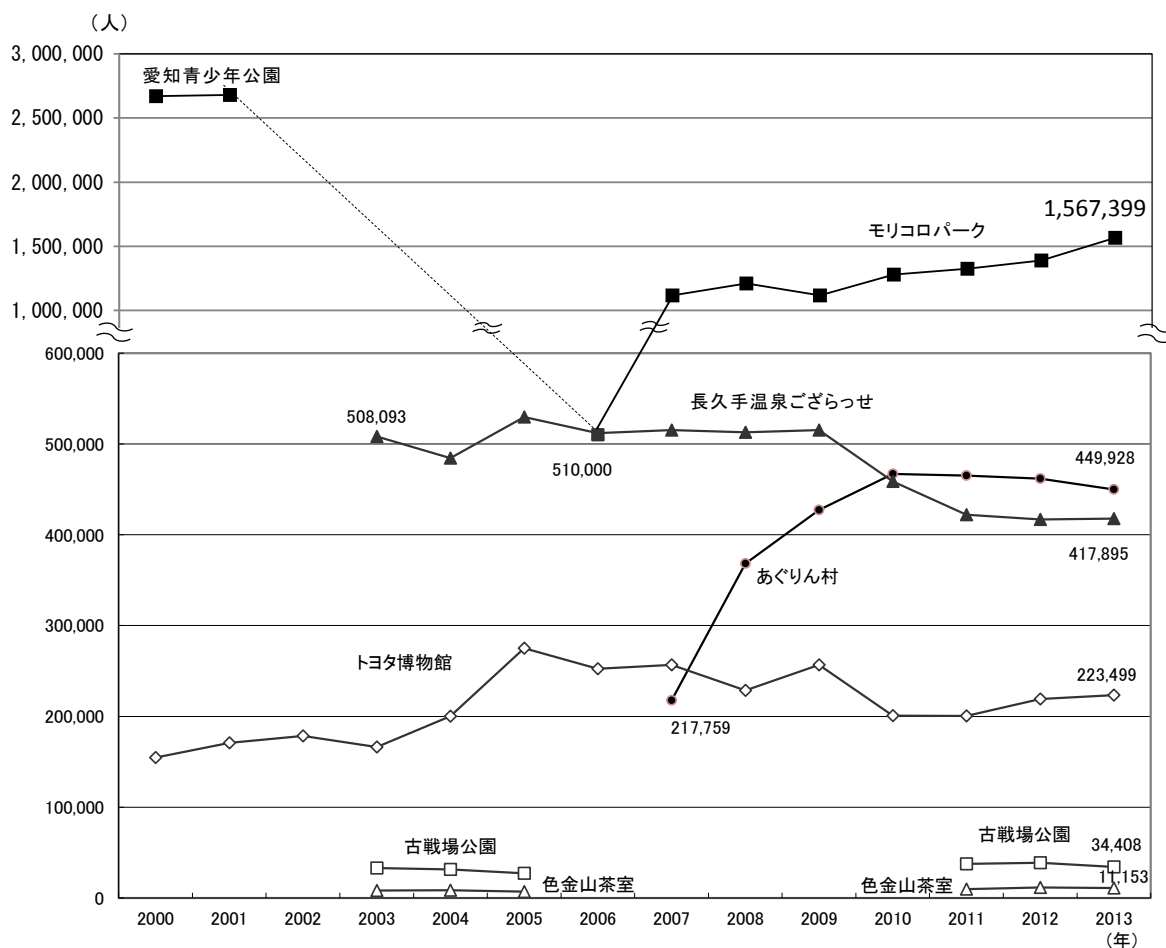


④ 施設の利用状況

「長久手温泉ござらっせ」と隣接する「あぐりん村」は、オープン以来「モリコロパーク」につき、利用者が多くなっています。また、民間施設の「トヨタ博物館」にも、全国から多くの人を訪れています。

「モリコロパーク」は、前身の「愛知青少年公園」には年間 260 万人以上の利用者がありました。愛・地球博のメイン会場となった後、平成 18(2006)年 7 月に第 1 期開園として万博で整備した自然体感遊具等が利用されるようになり、平成 19(2007)年 3 月には第 2 期開園として旧愛知青少年公園にあったプールやスケート場等が利用できるようになりました。その後も少しずつオープン区域が増え、平成 25(2013)年では年間 150 万人を超えるまでに利用者が回復しています。

図表 4 主な観光交流施設の利用者数



資料: 愛知県観光レクリエーション利用者統計より

(2)活動型観光交流資源

市内での主要な観光交流イベントは、古戦場公園や文化の家を始めとした市内の施設や公園等で実施されており、主なものとしては以下のような年間を通した展開がされています。

春



長久手古戦場桜まつり
実施月：4月上旬
主催：長久手古戦場桜まつり実行委員会

夏



ながくて納涼まつり
実施月：8月中旬
主催：長久手市商工会

秋



ながくてアートフェスティバル
実施月：10月
主催：ながくてアートフェスティバル実行委員会

秋



ながくて市民まつり
実施月：11月中旬
主催：ながくて市民まつり実行委員会

冬



ながくて冬まつり
実施月：12月～1月
主催：観光交流推進会議

(3) アンケート調査の結果

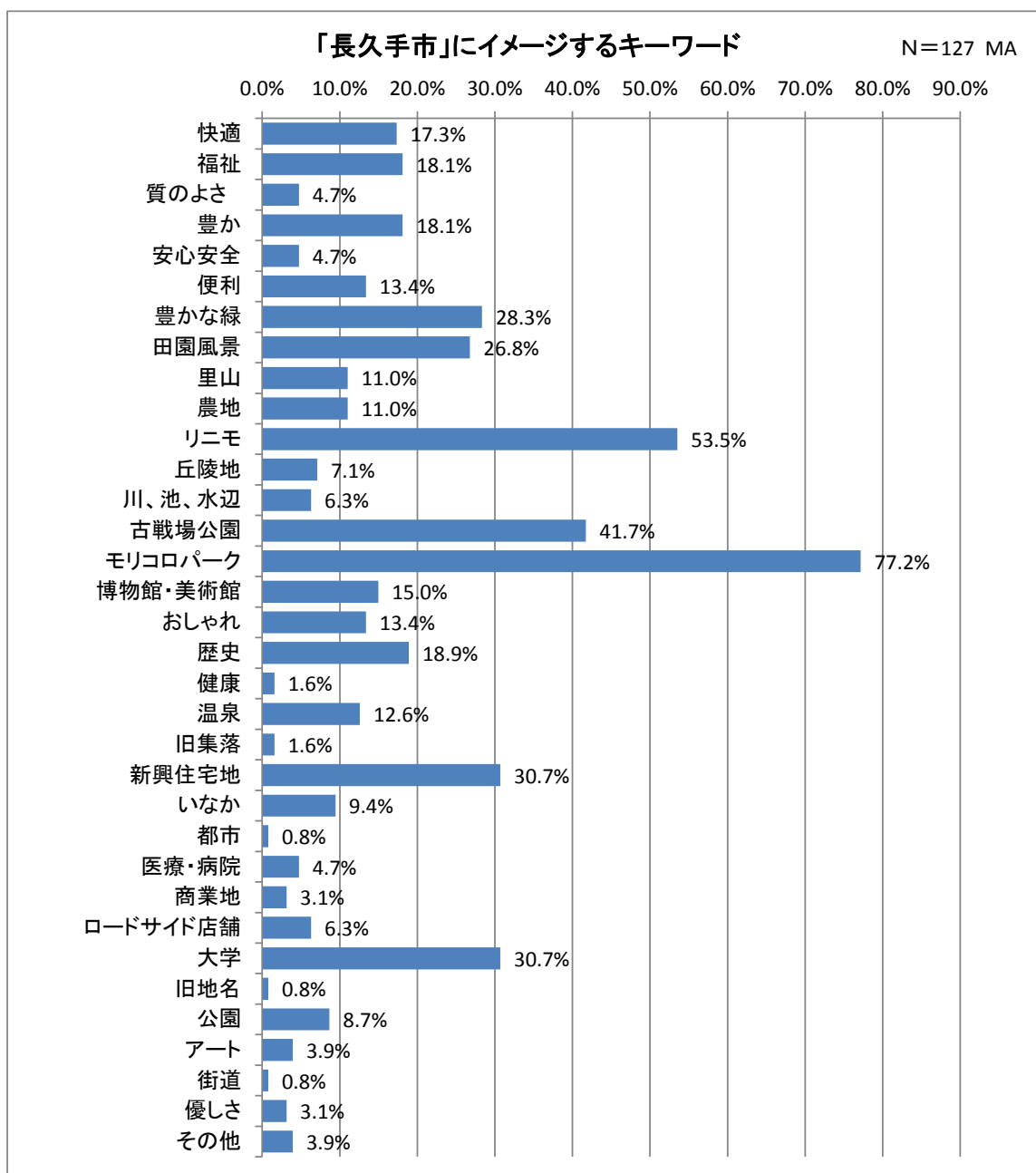
本市の今後の観光交流を考えるため、本市のイメージ、サードプレイスとしての心地のよい場所（詳細は後出 29 ページ参照）と今後の方向性について、市民や、観光交流に関わる施設職員、市民活動団体、商業店舗の来訪者 20 歳代から 70 歳代までの男女約 130 人を対象にアンケートを実施（期間：平成 27 年 1 月）しました。

調査の結果は、本市のイメージとしてモリコロパークや長久手古戦場、リニモのほか新興住宅地や大学があげられています。

サードプレイスについては、「モリコロパーク」、「トヨタ博物館」を始め「田園風景・景色」、「長久手温泉ござらっせ」、「古戦場公園」、「あぐりん村」など本市の施設がまんべんなくあげられています。具体的には個別の店舗、場所等のほか、「ながくて冬まつり」のライトアップもあげられています。

■問1 長久手市のイメージ

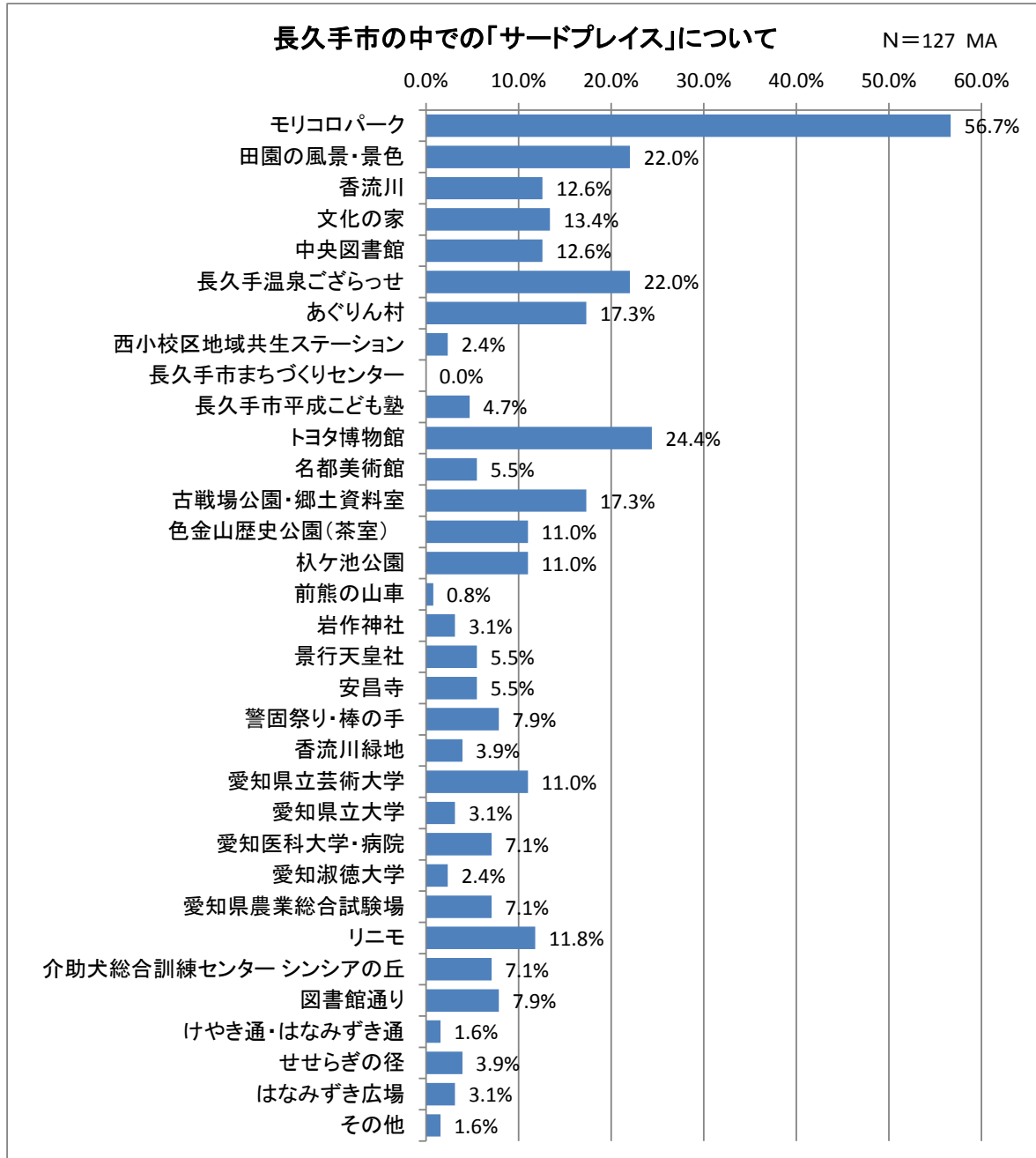
本市のイメージについては、「モリコロパーク」77.2%を最大に、「リニモ」が半数を超え、「古戦場公園」、「新興住宅地」、「大学」が続いています。



■問2 長久手市のサードプレイスについて

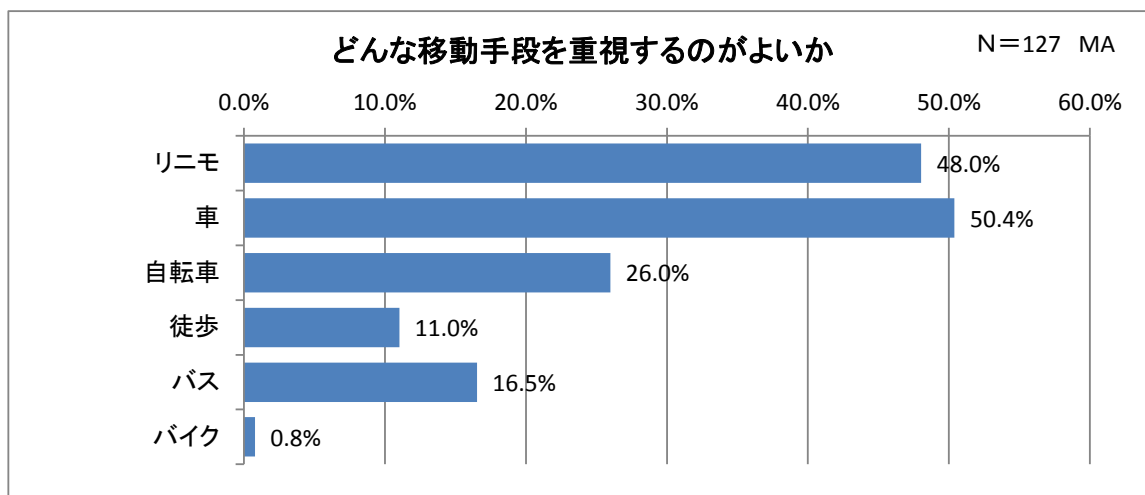
お店では、コーヒー専門店、ベーカリーショップ、スイーツ店が複数あげられ、場所では「モリコロパーク」、「トヨタ博物館」があげられています。

選択肢では、「モリコロパーク」が回答者の過半数を超え、「トヨタ博物館」、「田園風景・景色」、「長久手温泉ござらっせ」、「あぐりん村」、「古戦場公園」等があげられています。「モリコロパーク」が突出するものの、各選択肢も比較的まんべんなくあげられています。



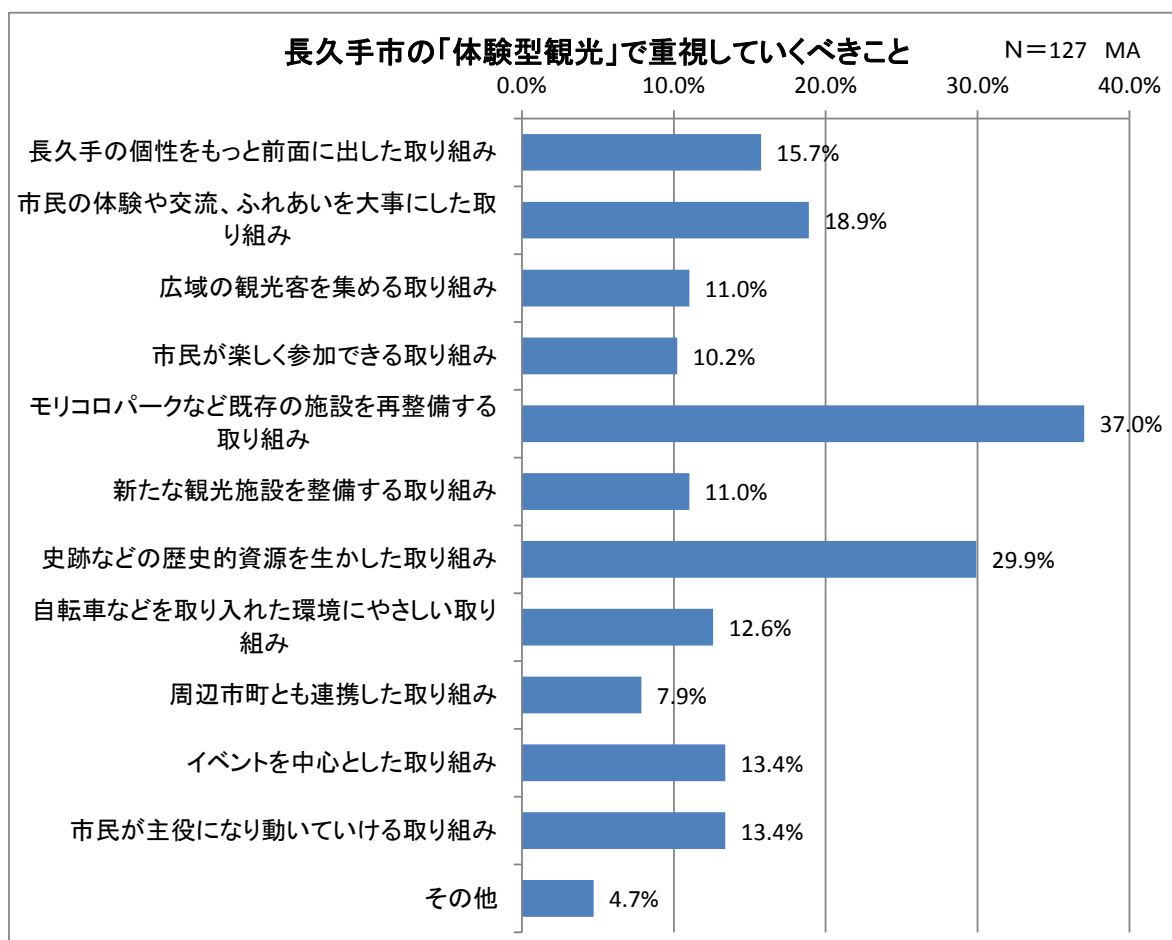
■問3 移動手段について

重視する移動手段については、「車」が50.4%で最も多くなりましたが、ほぼ同じく「リニモ」があげられ、次いで「自転車」が26.0%となりました。



■問5 今後の体験型観光で重視していくべきこと

体験型観光で重視していくことでは、「モリコロパークなど既存の施設を再整備する取り組み」37.0%、「史跡などの歴史的資源を生かした取り組み」29.9%と多く、「市民の体験や交流、ふれあいを大事にした取り組み」、「長久手の個性をもっと前面に出した取り組み」等がこれに続きます。



■自由記述におけるキーワード

○回答者 市内在住者 キーワード

自然、自然活用、モリコロパーク
ゆるキャラ
駐車場整備、貸自転車、レンタサイクルシステム
農業体験
歴史(まつり)、歴史(古戦場)、おもてなし、古戦場公園、情報センター、めぐる観光、長久手合戦、観光協会設立
文化マネジメント、トヨタ博物館
道の駅、歴史
新しい「観光」づくり、市民と考える、学生の活用、長久手オリジナル観光
イケア(商業)*、体験工房、北欧感覚、おしゃれを売る街
近隣の人

*現在、イケアが本市内に出店計画中

○回答者 長久手市外在住者 キーワード

モリコロパーク、B1 グランプリ、自然、若い世代、ファミリーとアウトドア、香流川散策、自転車交通公園、子どもの遊び場
「若くさわやかな街」、アピール・発信、おもてなし、コンシェルジュ
フェスティバル(音楽・芸術・アートなど)、芸術の街、体験型(音楽・芸術、民芸等)
歴史(棒の手、古戦場)が魅力的、甲冑試着体験、歴史・スタンプラリー
周辺との連携、立ち寄りルート
住みよさ体験のビジネスモデル
大学、おしゃれな街
ゆるキャラ
健康、自転車、サイクリング、資源ネットワーク
田園風景、農業、農に触れられる場、里山
スイーツ、食べ物、サイクリング、ウォーキング、歴史、商業
自然、おしゃれな店のセット、自然が弱い
公衆無線 LAN、情報、インターネット
観光まちづくりの市民理解・体験
市民の参画、関わり
歴史(古戦場)、集客施設、大学、温泉施設、リニモ、新たな観光施設
交流、環境、人、自然、多世代
大型施設誘致
イベント
住みやすい街、道路整備、公共交通機関整備、宿泊施設整備、新規観光施設誘致

(4)「ながくて幸せ実感調査」にみる地域の宝

「ながくて幸せ実感調査」とは、市民がイメージする理想の長久手であるかどうかのチェックを可能にする（＝ながくて幸せのモノサシ）ための基礎調査です。観光交流とは別の視点で市民と職員約20人で構成する「ながくて幸せ実感調査隊」を結成し、「ながくて幸せ実感調査」を行いました。

地域の宝（「ながくて幸せ実感調査アンケート報告書」平成26年12月より）

- モリコロパークやリニモ、各種公園などを含む「各種施設・公園」
- 「棒の手」、「長湫の警固祭り」、「岩作のオマント」等の「伝統文化」、「古戦場」や史跡、寺社等
- 自然・緑地や景観、各種行事、地産地消の特産品、子どもが多いこと等

地域における自慢すべき「宝」(その1)

■1. 伝統文化(127件)

- ・棒の手(47) ・長湫の警固祭り、岩作のオマント(34)
- ・各種祭り(20)…秋祭り、九万九千日会、秋葉山行者祭り、長久手古戦場桜まつり、ながくて納涼まつり、天王祭り、神社の祭り、盆踊り 等
- ・火縄銃(4) ・歴史(4) ・神楽(3) ・長久手の合戦(2)
- ・その他(13)…お月見どろぼう、県の無形文化財、子供獅子、左義長、太鼓、大黒山車、長久手城址、神輿、昔話 等

■2. 史跡、寺社仏閣(58件)

- ・古戦場(25) ・史跡(9) ・景行天皇社(7) ・塚(6)
- ・寺社(8)…富士社、安昌寺、永見寺、三光院等
- ・弘法(2) ・その他(1)…行燈

■3. 各種施設、公園(194件)

- ・モリコロパーク(42) ・リニモ(23) ・文化の家(21) ・古戦場公園(17)
- ・各種公園(17)…鴨田公園、交通公園、児童遊園、桧ヶ根公園、原邸公園等
- ・枅ヶ池公園(12) ・あぐりん村(9) ・長久手温泉ござらっせ(9) ・色金山歴史公園(6)
- ・各種公共施設(6)…歴史資料館、福祉施設等
- ・図書館(5) ・色金山歴史公園(4) ・せせらぎの径(4) ・トヨタ博物館(3) ・名都美術館(3)
- ・各種大学(2) ・福祉の家(2) ・愛知医大(2)
- ・その他(7)…たいようの杜、地下鉄の車庫、未来的な建物、リニモ駅周辺、モリコロパークの観覧車等

■4. 自然、景観(71件)

- ・自然、緑地(16) ・様々な小動物、昆虫(9)…カワセミやキジ、ホタルなどの生き物
- ・自然景観(7)…田園風景、季節の風景、田舎の風景
- ・街並み(6) ・田園、田畑(東小周辺など)(6) ・緑地(5) ・香流川などの河川(4)
- ・桜(4)…枅ヶ池公園の桜、古戦場の桜、血の池公園の桜等
- ・枅ヶ池(2) ・山並み(2)…御嶽山、伊吹山 ・街路樹(2) ・紅葉(2)…文化の家周辺等
- ・その他(6)…たいようの杜から名東区に抜ける森、ピエールプレジューズから見る風景、自宅の寒椿、青い空、林、土筆等

■5. 行事、イベント(22件)

- ・花火大会(9) ・運動会(2)…校区運動会等 ・文化の家のコンサート(2)
- ・地区の祭り(5)…校区夏祭り、北部自治会連合会主催夏祭り、夏祭り等
- ・その他のイベント(4)…トヨタクラシックカーフェスティバル、リニモクリスマストレイン、はなみずき駅周辺のクリスマスイルミネーション、東谷山祭り等

■6. その他(19件)

- ・住みやすさ(3)…住みよい環境、新興住宅地のオシャレな感じ、きれいな新築の家
- ・地産地消の特産品(3)…米粉パン、農産物、地産地消の取組
- ・子ども関連の取組(3)…子供会、小学校PTA、平成こども塾、アピタの子ども商店
- ・子どもが多いこと(3)
- ・安全安心な取組(3)…自主防災組織、婦人消防団、安心メール
- ・住民(2)…ひと、地域のお年寄り ・その他(2)…地域の名称、長久手ソング等

(5)ヒアリング結果

本市の今後の観光交流のあり方、特にサードプレイスなどの考え方、長久手オリジナルの観光交流のあり方について、有識者にヒアリングを行いました。ヒアリング対象者は、茶谷幸治氏、山崎亮氏、牧村真史氏、小島祐未子氏、大手自転車メーカー店長の中林康記氏です。

ヒアリングの結果としては、以下のような意見をいただいています。

茶谷幸治氏

<プロフィール>

イベントプロデューサーとして「アーバンリゾートフェア神戸'93」のチーフプロデューサーを皮切りに「世界リゾート博」の催事プロデューサー、「南紀熊野体験博」「しまなみ海道'99」の総合プロデューサーを務め、一貫して地域・住民主体の地域活性化イベントを主導してきた。その集大成が「長崎さるく博'06」で、日本ではじめてのまち歩き博覧会を市民主体で成功させた。その後、大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会（大阪あそ歩）チーフプロデューサーとして大阪の市民文化観光の推進に精力的に活動し、現在、一般社団法人大阪あそ歩委員会代表理事。

■「心地よい一息つける自宅・職場以外の場所(サードプレイス)」を提供することが、長久手オリジナルの「観光」となるか。

○サードプレイスであるためには、「ホッと一息の場所」を具体的に提供しなければ、人々を吸引できない。

現状では「なんとなくサードプレイス」であって、具体性がない。たとえば、次のような環境を造成するとよい。

- ・ 広い快適な読書スペースを提供する。
 - ・ 無料で提供される屋内・屋外スペースで、そこではゆっくりと一日中、好きな読書が楽しむことができる。
 - ・ 付属の図書館があればなおよい。
 - ・ 喫茶やショートドリンクも可能。
 - ・ 施設が広くて解放感があること。

 - ・ 1～2時間、野外の空気を存分に吸えて生き返る理想環境を提供する。
 - ・ 自然再生環境
 - ・ 小川、森、野鳥観測、蛍、蝶・トンボ、エコトイレ、ベンチなどが必須
 - ・ インタープリターも

 - ・ ガレージセール（リサイクルフェア、フリーマーケット）の本場になる。
 - ・ スペースと付属施設を提供して、市民自らが運営する。
 - ・ 巨大規模であることが必要
- *上記のすべてに、市民アートを関連付ける。

■長久手の魅力について

○上記の事業、すべてに、市民が全面的に運営主体になっていること。

そのことが長久手市の重要な観光資源になる。

山崎亮氏

<プロフィール>

Studio-L 代表。東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科教授。京都造形芸術大学空間演出デザイン学科教授。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニケーションデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、建築やランドスケープデザイン、市民参加型のパークマネージメントなどに関するプロジェクトが多い。本市の市民と市役所若手職員との住民プロジェクトにかかわる。

■「心地よい一息つける自宅・職場以外の場所(サードプレイス)」を提供することが、長久手オリジナルの「観光」となるか。

○サードプレイス的な空間を作ることは大切なことだと思います。それは、住みやすい街を実現するために必要な要素だと思います。そのうえで思うことは以下の二点です。

- ・まず、サードプレイスが観光資源になるのは難しそうだと思います。無理ではないでしょうが、それ単独で観光客を集めるのは難しいでしょう。イメージはポートランドかもしれませんが、あの街もサードプレイスとしてのカフェや雑貨屋の裏側にパーマカルチャー農園があったり独自の自治会組織があったりします。サードプレイスとそれを成り立たせるための仕組みとがセットになっている必要があるでしょう。
- ・2つ目は1つ目に関係するのですが、そのサードプレイスは誰がマネージャーなのかが大切です。そこで人と人とをさり気なくつなげてくれる人がどれほどいるかが重要になります。そうすれば、何かを買いに来るのではなく誰かに会いに来るという行動を呼び起こすことができますし、地域住民が繋がるきっかけを生み出すことができますので、結果的に住みやすい地域を作ることができるでしょう。

■長久手の魅力について

○定住人口と交流人口だけで考えるのではなく、まちづくりや地域づくりに参加する活動人口を増やすことも大切だと思います。人口が増えている自治体では活動人口を増やすのは難しいですが、21世紀の人口増加自治体として、これまでと同じような方策で将来も同じような結果にしてしまうのはもったいないでしょう。

○主体的に活動する人、参加する人をいかに増やすかが重要です。そして、その活動が楽しくておしゃれであることも大切です。楽しさなくして参加なしであり、参加なくして地域なしだと思います。

活動に参加することは、その人の人生を豊かにしますし健康を維持しますし役所も助かります。孤独は喫煙より体に悪いことが研究結果として出ています。作り笑いでも寿命は2年伸びることが分かっています。これは高齢者だけの問題ではなく、若いうちから作っておくべきつながりの大切さを物語る結果だと言えるでしょう。

○長久手市は、住みやすいまちを徹底的に作るというのがいいと思います。その住みやすさとは、単に便利だということではなく、自分たちの暮らしを自分たちで作りに上げていくという、わくわくするような生活の魅力を意味します。

牧村真史氏

<プロフィール>

イベントプロデューサー。株式会社集客創造研究所所長。

博覧会や大型イベント、地域活性化プロジェクトなどの事業企画・プロデュース。三陸海の博覧会（岩手県）総合プロデューサー / 愛・地球博チーフプロデューサー / 上海万博日本政府館プロデューサー / 上海世博海外顧問 / 柏崎市シティセールスアドバイザー / 新宿クリエイターズ・フェスタプロデューサー。

■「心地よい一息つける自宅・職場以外の場所(サードプレイス)」を提供することが、長久手オリジナルの「観光」となるか。

- 長久手市は小牧・長久手の戦いの古戦場や家康を始め戦国武将ゆかりの歴史史跡、トヨタ博物館、愛・地球博記念公園等があり、これら観光資源の再活用も含め、まち全体を体感空間として体験観光を考える必要があります。
- 併せて公共空間、公共的空間(駅、商業施設、公開空地、未利用地など)のイノベーションやリノベーションによる活用により地域活性化をはかり、体験観光との連携、相乗効果を演出していく必要があると考えます。
- 「ホッと一息できる、くつろぎの空間～サードプレイス」は個人のライフスタイルや価値観、世代によって大きく異なります。子育て世代、若者、高齢者ごとに異なり、外国人と古くからの住民によっても異なります。
- また、体験観光の定義や対象者、シーズンなどによって大きく変わりますので、十分な議論が必要と考えます。
- ニューヨークのセントラルパークがサードプレイスの例で挙げられます。
- また、公園以外にも街角のオープンカフェや古民家、まち中の歩道の小空間のデザインされたベンチなどやアート性、デザイン性に富んだ街路もサードプレイスになります。
- もう一つの要素としてイベントがあります。日常の中の非日常感を演出するくつろぎや発見の体験に有効です。アートイベントや路上ワークショップ、まち中コンサートなど様々な手法があります。
- ホッとするくつろぎの体験観光は町並みの整備だけではできません。くつろぎと体験のプログラムが重要です。

■長久手の魅力について

- 日本の各地で体験観光が提唱され始めております。
- 各自治体では歴史や文化、産業などの集積、特徴を基にまちづくりや市民活動の手法として、或いは観光振興策として参加型の取り組みが行われています。

小島祐未子氏

<プロフィール>

情報誌の演劇担当・編集長を経て、現在はフリーランスの編集者・ライターとして活動。新聞・雑誌などに執筆する。また、WEBサイト「DUCK SCOOP 家鴨通信」を運営。東海地方を中心に幅広く表現活動の紹介を行っている。

■「心地よい一息つける自宅・職場以外の場所(サードプレイス)」を提供することが、長久手オリジナルの「観光」となるか。

○知人のミュージシャンやアートの周辺にいる人たちが、近年、長久手で農業に従事している話をよく耳にします。自分たちの食べるものは自分たちで……という自然回帰の目的が、彼らの創造する音楽や志すアートともシンクロしているからなのですが、そういった人たちを巻き込んで、食文化と芸術文化の交差するサードプレイスを立ち上げられたら、長久手らしい癒しを提供できるのではないのでしょうか。

■長久手の魅力について

○先の回答とも関係しますが、大きな道路と道路の間に広がる敷地を利用して、文化的なイベントを仕掛けてみるのはどうでしょうか？

あいちトリエンナーレ2016と絡めた形で初回を立ち上げ、その後も継続していくのが理想。音楽フェスでもいいですし、非常に困難ですが、今では全国的に希少となった野外劇など試みるのも、思い切った挑戦です。文化の家と連携することで、企画・人材の検討や団体誘致の協力を得てみてはいかがでしょうか。

中林康記氏

<プロフィール>

世界最大の自転車メーカーで、台湾を代表する企業の一つでもあるGIANT（ジャイアント）のワンブランドショップ「ジャイアントストア名古屋店長」。
名古屋市街から愛・地球博記念公園（モリコロパーク）に続く長久手市内のグリーンロード沿いに店舗を置く。

■「心地よい一息つける自宅・職場以外の場所(サードプレイス)」を提供することが、長久手オリジナルの「観光」となるか。

○「住みやすいまち」であるという事は既に何か惹きつける魅力があるという事だと思います。幸い長久手には上記にあるようにおしゃれなお店やカフェ、温泉施設等も点在しており、モリコロパークをはじめとした豊かな自然環境も身近にあり、長時間の滞在ができる要素があると感じていますが、残念ながらせっかくのポイントが繋がっていないと感じます。こういった面がうまく繋がれば更に魅力あるまちになっていくのではないかと思います。

■長久手の魅力について

○名古屋市街地から離れている事を活かし、喧騒から離れられる点をメリットとした

「のんびり」「ゆったり」「ゆるい」雰囲気や空気感

→のんびりゆっくり滞在できる・したい。

○モリコロパーク内の施設や街の特性を活かした「健康」を意識した施策・まちづくり

(ウォーキング・サイクリング・ジョギング・水泳等)

→学生等若年層だけでなく、アクティブシニアの方々にも関心が高いはず。

○「アニメ」「漫画」「ゲーム」等のコンテンツと連携した施策

→増加している外国人観光客も見据えた物

■アンケート、幸せ実感調査、ヒアリングからの分析

○長久手のイメージについて

- ・アンケートによると、長久手のイメージとして市民は「リニモ」、「古戦場公園」、「大学」が上位3位と強いイメージを持っていますが、市外の方は「モリコロパーク」が80%とほとんどで、市民が上位にあげたイメージはそれほど強く持っていません。

○長久手のサードプレイスについて

- ・市民の感じているサードプレイスは、アンケートによると「モリコロパーク」、「中央図書館」、「棒の手・警固まつり」がトップとなり、次いで「田園風景」、「文化の家」、「図書館通り」、「リニモ」、「あぐりん村」、「古戦場公園」、「県立芸大」が続いています。
- ・市外の方の回答では「モリコロパーク」が60%となり、次いで「トヨタ博物館」、「長久手温泉ござらっせ」、「田園風景」が20%強となり、市民とは異なる回答となっています。
- ・アンケートの自由記述欄にて回答のあったサードプレイスについては、幸せ実感調査の市民が思う地域の宝の回答と類似しており、地域の宝は、地域資源と重なり、サードプレイスとして提供可能であると言えます。

○サードプレイスを提供することが本市の観光につながる

- ・ヒアリングによると、サードプレイス的な空間を作り、地域市民自身がマネージャーとなり、それらをつなぐことができれば、市民同士も繋がり、結果住みやすい地域になります。
- ・本市の地理的、活動内容の特徴から、食文化と芸術文化を交差するサードプレイスを立ちあげると長久手らしい癒しの空間となり観光につながります。

○本市の魅力について

- ・ヒアリングによると、サードプレイス的な空間を作る活動を、おしゃれで楽しくしていくことで活動に携わる市民が増えることになり、市民同士または来訪者との交流の楽しみから外に出ることが、市民の健康の維持増進にもつながり、このようなことを提供することが、長久手のイメージを高めることにつながります。
- ・学生からアクティブシニアまで幅広い年齢層の関心をとらえるため、施設やまちの特性を活かし「健康」を意識したまちづくりがよいと思われます。

○まとめ

- ・市民は日常生活に近い所でサードプレイスをあげているのに対して、市外の方の回答者は従来の観光施設等を中心にあげている傾向があり、情報が限られた中でそれぞれの場所を訪れ、良さを感じているものと思われます。
- ・今後の方向として、施設の再整備を望む意見は多いですが、体験・交流、市民参加、イベントをあわせると、それに匹敵する意見となり、また、市外の方の自由意見をみると、必ずしも観光に特化した施設のみを期待しているとは限らないため、市民が日常感じている農・アート・健康等の地域資源としてよさを伝えることができれば、本市内で来訪者にも観光資源として心地よい場所（サードプレイス）を提供していくことにつながるのではないかと考えられます。また、市民に対しても、様々な活動体験が楽しみや健康につながる等の理解が進めば、参加の可能性が広がる期待できるのではないかと考えます。

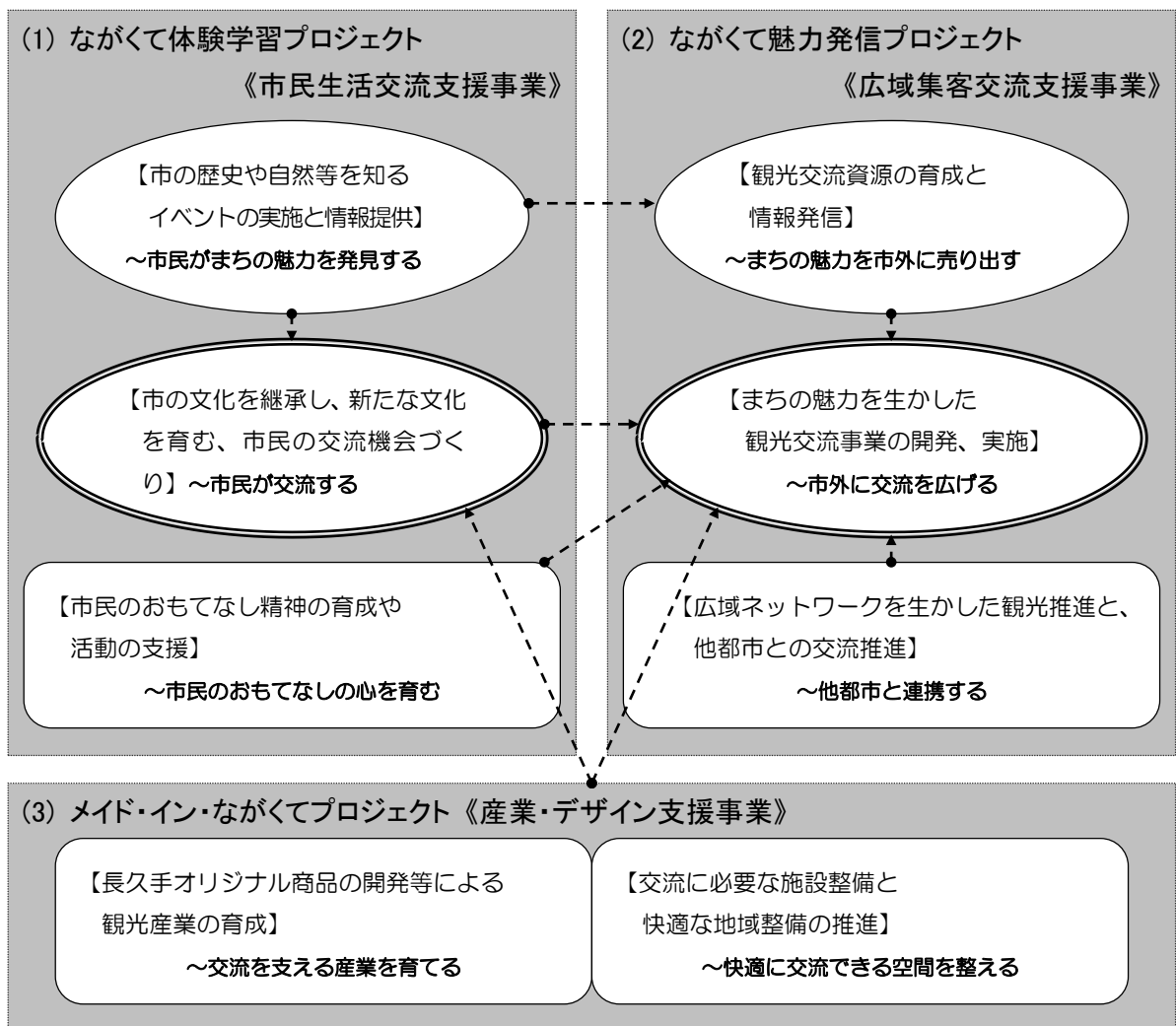
2 これまでの取り組みと課題整理

①第1次観光交流基本計画の概要

第1次長久手市観光交流基本計画は、平成19（2007）年3月に策定後、基本理念目標像《あったかいふれあいのある、居心地のいいまち 長久手「住んでみて！ 訪れてみて！ いいまち ながくて」》と定め、魅力を生かしパートナーシップで進める「長久手観光交流まちづくり」を推進理念として観光交流まちづくりに取り組んできました。

その目標実現のため、以下の3つのプロジェクトを掲げました。

図表5 各プロジェクトの方針



②第1次観光交流基本計画の各プロジェクトの方針と実施例

■ながくて体験学習プロジェクト《市民生活交流支援事業》

○プロジェクトの概要

市民が市に愛着や誇りを持ち、“おもてなし”の心につながるような交流活動を支援していくプロジェクトです。

○プロジェクトの方針と実施例

【市の歴史や自然等を知るイベントの実施と情報提供】～市民がまちの魅力を発見する

転入した市民が多い本市では、市民が市内の歴史や自然、文化等に触れ、まちの魅力を発見することで、まちを知り、愛着や誇りが高まるように、体験学習等のイベントを実施しました。

実施例

- 観光交流推進会議が発行する「グルメまちあるきマップ」の作成、市内各施設配布
- 大学生と小学生の協働による「グリーンマップづくり」

【市の文化を継承し、新たな文化を育む、市民の交流機会づくり】～市民が交流する

市の歴史や自然の保全・活用、伝統行事の継承、自然・農業を体験するイベントの実施、新たな芸術・文化の創造・発表等の活動を通じて、世代間の交流や農村部と都市部との交流等を活発にするとともに、人や団体のネットワークが広がる機会を増やしました。

実施例

- 「警固祭り(オマント)」、「棒の手」、「前熊太鼓」、「ざい踊り」等の伝統芸能の継承
- 田園バレー事業「長久手農楽校」、まちなか農園の実施
- 文化の家事業の「アートフェスティバル」や「ガレリアコンサート」等の実施
- 市民から歌詞を応募し、本市にゆかりのある音楽家が作曲した長久手応援ソング「クーテンガーナ」及びその踊りの作成

【市民のおもてなし精神の育成や活動の支援】～市民のおもてなしの心を育む

愛・地球博の開催を契機に、市民の「おもてなし精神」が育まれ、来訪者との交流を楽しむ経験を通じて得られたまちへの愛着や市民としての誇り、人とのつながり等を活かして、おもてなしの機会づくりやボランティア・ガイドの育成、市民活動の支援、活動団体のネットワーク強化などを進めました。

実施例

- 郷土史研究会による史跡ガイドボランティア
- 協働まちづくり事業活動助成金による地域の課題解決に取り組む市民団体への支援

■ながくて魅力発信プロジェクト《広域集客交流支援事業》

○プロジェクトの概要

市民の「おもてなし精神」をもとに、既存の施設やイベント等を活用して集客し、より広域での交流を図るプロジェクトです。

○プロジェクトの方針と実施例

【観光交流資源の育成と情報発信】～まちの魅力を市外に売り出す

より広域で集客、交流できるよう、市の歴史や自然、文化、風景等の中から特徴的な観光交流資源を発掘、育成し、長久手の魅力・イメージをブランド化して市外にアピールしました。

実施例

- 観光交流推進会議による観光交流資源の総合的な情報発信「観光交流ガイドブック」の作成、ホームページ（スマートフォン対応も含む）への掲載
- 古戦場公園及び食を登場させた市民が作成した映画の製作及び上映

【まちの魅力を生かした観光交流事業の開発、実施】～市外に交流を広げる

既存の歴史・文化財や新しい文化・芸術イベント等を活用して、より広域で集客、交流できるような本格的な観光交流事業を開発し、観光施設や交通機関、関係機関、行政等が連携して実施しました。

実施例

- 「長久手古戦場桜まつり」と「まちセンまつり」の同時開催による交流づくりの拡大
- トヨタ博物館事業「クラシックカーフェスティバル」をモリコロパークにて開催した市内集客施設間の連携
- リニモ沿線の活性化及び交流を目的とする観光交流関係団体と市民、学生で構成する実行委員会による「ながくて冬まつり」の企画運営

【広域ネットワークを生かした観光推進と、他都市との交流推進】～他都市と連携する

名古屋市や瀬戸市、豊田市等に隣接しているという立地条件を生かし、全国的に知名度の高い観光施設を活用して、広域的なネットワーク型の観光開発・PRに努めました。また、近隣市町や姉妹都市、交流都市等との連携を強め、人や物、情報の往来などの交流を活発にしました。

実施例

- 名古屋圏観光宣伝協議会を活かした他県への観光情報PR
- 長久手市国際交流協会によるベルギー王国ワータール市とのホームステイを通じた姉妹都市間交流

■メイド・イン・ながくてプロジェクト《産業・デザイン支援事業》

○プロジェクトの概要

市民生活における交流や広域集客による交流を支えるための基盤形成(商品やサービス開発などの産業振興や、歩きやすい・分かりやすいまちづくりなどの地域整備)をしていくプロジェクトです。

○プロジェクトの方針と実施例

【長久手オリジナル商品の開発等による観光産業の育成】～交流を支える産業を育てる

交流や集客を支える産業の役割を重視し、魅力的な店舗の育成や集積促進、新たなサービス産業の振興や農業等と連携した観光産業の育成とともに、食や特産品・土産物等の提供、観光交流関連グッズの開発等を支援していきました。

実施例

- 店舗と大学生との共同開発による地元野菜を使用したスイーツの商品化
- 米粉活用を推奨するため商品開発及び起業につながる米粉商品のコンペ開催
- 県立芸大との連携による米粉PRキャラクターの作成
- 市民発案から生まれたキャラクター「クーティガーナ」の広報ナビゲーター等の活用
- 地元野菜を活用した麺を提供する飲食店
- 育てた野菜を地元で販売し、地産地消及び安心安全な「食」を提供する機会づくり
- 株愛知高速交通によるリニモを活用した「チョコロQ」等の製作及び販売
- 子育て中の女性や熟年層などの人材を活用した「ながくておとなの起業塾」の開催

【交流に必要な施設整備と快適な地域整備の推進】～快適に交流できる空間を整える

まち歩きや散策に必要な標識や案内板、休憩場所などの整備を進めるとともに、より楽しく快適に歩くことのできる遊歩道や美しい沿道景観の整備、まちなかのストリートファニチュア等のデザイン向上、バリアフリー化等を進めました。

実施例

- 道路案内とは異なるデザインのまちあるき看板の整備
- 街路整備とあわせ、みどりの多い本市の特徴を生かした通りの名称設置
- 地域コミュニティやボランティアによる緑化活動や環境活動
- 市民、市民団体、事業者などが、それぞれの地域で気軽に集い、語り、地域課題に対する取組を行うための拠点となる地域共生ステーションの整備

③第1次観光交流基本計画における課題

第1次基本計画策定時の平成19(2007)年にイメージしていた観光交流プロジェクト取り組み例と現在の実施例を比較すると、実施したプロジェクトの内容は、従来の観光のイメージの域を超え、交流を目的としたまちづくりの性格が濃くなってきています。

ながくて体験学習プロジェクト《市民生活交流支援事業》のクーテシガーナの歌と踊りについては、市民と音楽家等とのコラボにより誕生し、その後も市民自身が、歌と踊りをPRするため、市内で開催されるイベントに参加するなど広報活動も積極的に担っています。

また、ながくて魅力発信プロジェクト《広域集客交流支援事業》においては、観光交流団体、市民、学生で構成している実行委員会が企画運営実施している「ながくて冬まつり」に代表されるように、市民等の企画による交流イベントが盛んに実施されています。イベントの実施に係る経費も地元企業等から協賛金を集めるなど資金獲得にも工夫が見られます。

しかし、まちあるきに活用できるスマートフォン等に対応するアプリの開発や、メイド・イン・ながくてプロジェクト《産業・デザイン支援事業》にみられるように従来の観光のイメージの域が色濃く残る特産品開発等も行われているものの、継続した新規企画や商品開発を担うための組織作り等ができておらず、事業を広報する手段等においても実施関係団体が行う広報のみとなり、関係団体のネットワークを活用した広報連携等により効率、効果的な広報手段について検討の余地が残っています。

これらのことから以下の6つの課題があげられます。

第1次基本計画における課題

- 1 多様な観光資源（地域資源）の発掘
- 2 観光資源（地域資源）の連携を体験型観光メニュー組み立てへ活用
- 3 長久手の魅力を伝える情報発信と観光案内機能の充実
- 4 観光資源（地域資源）となる団体の活動促進
- 5 観光交流を推進する仕組みづくり
- 6 観光交流に関わるすべての市民等が一丸となったおもてなし

第3章 今後の観光交流の可能性

1 視点と考え方

(1)「観光交流」の視点と考え方

①観光ニーズの変化

全国的に、名所や旧跡を訪ねたり行楽地で遊んだりする、「観光地」や「観光施設」を中心とした観光から、訪れた先の人や文化に触れ、体験し、遊ぶ「体験型観光」へと変化しています。

②地域ブランドづくりによる観光振興

地域ブランドづくりによる観光振興には、地域の農水産や工業製品などの「地場産品」、地域独特の名物料理や郷土料理等を「ご当地B級グルメ」として開発・販売する「もの」による地域ブランドづくりと、地域独自の「場の価値」を観光資源に取り込んで観光振興を図る、地域イメージのブランド化による観光振興があります。

③観光の眼で見て初めて気付く地域資源がある

市民にとっては日常的な活動であるが、市内外からの来訪者にとっては、珍しく体験してみたいと感じられるものは、「異日常的な資源」と言われています。市民にとっては日常的な風景や活動のため、その価値に気がつきません。しかし、その普通の日常が魅せ方、情報発信の方法等により、来訪者から見ると、いつもの自分の日常風景等とは異なるため、珍しい、体験したいと思わせる観光資源となります。市民の日常活動を見直し、価値のある地域資源として発掘（再認識）し、観光資源として魅せていくことが必要です。

④地域経済が稼ぐためのポイント ～地域産品、宿泊客の獲得、リピーターの確保～

新たな地域資源を発見（再認識）し、多数の観光客が来ても、お金を使ってくれないことには、地域経済の活性化に結びつきません。

このため、①売れるお土産品の開発・販売、②宿泊客の獲得、③リピーターの確保が重要なポイントになります。特に、後者については、観光客の滞在時間を伸ばすため、広域回遊ルートの設定等自治体を超えた広域的な取り組みも求められることになります。

(2)長久手市の立地特性から「観光交流」を考える

①長久手市の特性

ア. 本市は、大都市圏（名古屋市）に隣接したまちであり、また抜きんでた観光資源がないことから、市独自の観光開発は限界があるため、周辺市と連携した「広域観光」を目指します。本市はその結節点（ハブ）としての機能を持つことで広域観光のイニシアチブを保持します。

イ. 豊かな自然環境、高層建築物がない開放感、学生が多くおしゃれな店も多いことから「住みやすい街」、「若い街」というイメージがある本市。これらを観光資源（長久手オリジナル＝ながくてスタイル）として守り育てることを考えます。

ウ. 本市の現在の取り組みとして農、アート、健康があります。農では無肥料や無農薬による自然農法への取り組みとともにその販売等の手法により健康をアピールしたり、また、農地をアートキャンパスに見立て作品を創り飾る等、本市の豊かな自然環境と市民の取り組みを連携させ、農とアートと健康で人とまちと仕事がつながるまちづくりを進めています。

②長久手オリジナルの観光交流を、長久手の 2050 年の姿を想定しながら考える

本市は 2050 年ごろまでは人口が微増しつづけ、64,000 人をピークにその後は人口の伸びが減少に転じます。この間、都市整備基盤が整い、市街地の住宅建設や大型商業施設の出店が進み、リニモ長久手古戦場駅や公園西駅周辺では「リニモテラス」の整備の他、環境配慮型のまちづくりが進められます。そして、その後、人口増加が止まり、人口年齢の構成比率も 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口の割合が減り、65 歳以上の人口の割合が増えてきます。社会は定住型へ移行します。シニア層自身も、日頃のまちづくり活動に参加することにより、生きがいのある充実した毎日を過ごすことができます。この日常のまちづくり活動そのものが地域資源となり、それを磨き情報発信すると市外からの来訪者から見れば、自分の日常とは異なって映り観光資源となります。市民の日常生活や活動にあった施策を観光施策とします。

(3)「観光交流」についての新たな視点

①基本計画改訂検討会における新たな視点

今後の本市の観光交流を考える新たな視点として、基本計画改訂検討会委員からも、以下の視点があげられました。

1つ目に、市民の持つ「おもてなしのこころ」を活かしていくことです。

2つ目に、市内に存在する農地などを活用した「農の体験を観光に結びつける」ことです。

3つ目には、観光の魅せ方としての、「みる」、「あそぶ」、「まなぶ」、「かう」、「たべる」の5つの要素で観光資源を磨いていくことです。また、観光交流まちづくりの視点と、「つないでいく・編集する」ということを併せて行っていくことが必要です。観光交流資源をつないでいくための手段として、年間の観光イベントを一体化させること、観光交流資源を結び回遊する「レンタサイクルのシステム」があるとよいとの意見もあります。

4つ目に、暮らしやすい＝人が集まる、と考えられており、ライフスタイルをつくりだしていくことが長久手のオリジナルな観光交流として求められています。

5つ目として、「情報発信」があげられ、長久手のおもてなしの心を活かして、長久手を「紹介・案内」してくれる“コンシェルジュ”を置くことが提案されています。

最後に、観光のあり方、取り組みを市民に理解してもらうことが大事であるとの指摘があります。

上記の視点をもとにした具体化の例として

①観光交流資源をみがき、それをつなぐ手段

- ・年間イベント共通のスタンプラリーを実施する。

②点在する観光交流資源を回遊（体験）する手段アイデアとして紹介する。

- ・リニモの駅で自転車をレンタルして、どのリニモの駅でも返すことができる。
- ・リニモに自転車を積み移動できるよう関係団体との検討及び調整を図っていく。

③おもてなしの心を生かした情報発信（ライフスタイルの発信）

- ・「長久手」を紹介、案内する“コンシェルジュ”をリニモテラスに設置する。

④「長久手」の観光交流のあり方等を、市民に理解してもらい、積極的に参加してもらう。

②先進地の観光交流事例

パークアンドウォーク（観光交流の起点をつくる）

事業	小布施パークアンドウォーク
地域	長野県小布施町
ポイント	<p>○まち歩きに程よい規模という町の特性を活かし、郊外にマイカーを止め町中を散策する「パークアンドウォーク」を推進</p> <p>○高速道路のパーキングエリア及び道の駅に併設した公園を整備。公園内施設を起点に周遊バスを運行</p>
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小布施町内を周遊するレトロなシャトルバス「おぶせ浪漫号」を運行し、歩いて楽しむまちづくり「パークアンドウォーク」を進める。 ・小布施町は、昔から豪農豪商の家が多く、独特の古い街並みを誇っている。そのため、町内の道路や駐車場はそれほどの容量を持っていない。これまでは長野電鉄小布施駅を利用するか、車等の交通機関で訪れるしか方法がなかった。 ・<u>町自体が徒歩や自転車で散策するのにちょうどよい規模であること</u>、町のはずれを通る高速道路の利用者が素通りしてしまう危惧等を考え、小布施ハイウェイオアシスを設置。このハイウェイオアシスへは、上信越自動車道小布施パーキングエリアを通じて、また一般道からも立ち寄ることが可能。 ・ハイウェイオアシスからは、利用者がパークアンドライド形式で町の中心部へと気楽に周遊を行うことができるように、同公園内の千曲川ハイウェイミュージアムから町中心部等を結ぶレトロな周遊バス「おぶせ浪漫号」の運行を行う。 ・上信越自動車道の小布施パーキングエリアからのお客様を町内にお迎えするという交通手段として、また、長野県で一番小さな町の特性を活かし、郊外に車を止め、町中を歩いて散策していただくという「パークアンドウォーク」運動を推進するための一つの柱として運行。



2 長久手オリジナルの観光交流とは

基本計画を改訂するにあたり、「観光」を物見遊山的なものと考えのではなく、「観光まちづくり」や「観光交流」という視点で捉え、長久手の人や文化に触れ、体験し、遊ぶ「体験型観光」を考えることが大切です。

例えば、農地を活用した耕作や収穫体験、それを調理し食べる体験につなげる。さまざまなイベントをスタンプラリー化して、市民が楽しむことと本市内で開催される年間のイベントを一体化する。長久手古戦場やモリコロパーク等の観光施設とカフェやショップ等を結ぶコースを設定する。いまある資源を編集し新たな魅力づくりをすることが、「観光まちづくり」・「観光交流」につながります。

また、市内をくまなく巡るための手段として自転車を活用し、それに公共交通であるリニモや、本市のコミュニティバスであるN-バスを組み合わせた回遊手段を検討することも、他市にはない長久手オリジナルな「観光交流体験」の提供になります。

「市民が幸せそうに生活している場所は、訪れた人が『自分も住んでみたい』と感じ、何度も足を運びたくなる。いわば、テーマパークのような一時的な『非日常』性ではなく、地域に根づいたライフスタイルの『異日常』性が最大の売りポイントです。」という農林水産庁認定の観光カリスマ・山田桂一郎氏の言葉があります。まず市民が楽しむ、それを市外からの来訪者が見に来るという仕組みづくりが、新たな長久手オリジナルな観光視点になります。

都市生活者にとって、慌ただしい都心で働く人々が「心地よい一息つける」場所や時間は貴重であり、今後ますます求められるものと考えられます。この「心地よい一息つける」場所がサードプレイス*であり、これは都市の日常ではない「異日常」の中に見いだされるものであると考えられます。人々のサードプレイス（心地よい場所）となりうる場所を提供し、本市の特性である農や健康、福祉、文化の中にある日常のライフスタイルをここでは長久手オリジナルの「いい日常」として位置づけ、本市在住者あるいは市外からの来訪者自身が発掘し、さらに磨いて発信・交流していくことが長久手オリジナルな観光（ながくてスタイル）となります。

※「サードプレイス」：社会学者のレイ・オルデンバーグは、都市生活者にとっての自宅、職場に次ぐ第三の居場所としてサードプレイスという概念を提唱している。くつろいだ時間を過ごしたり、友人知人と語らうためにそこに集うのである。オルデンバーグは、こうしたサードプレイスの存在が都市の魅力を高め、都市生活者にとっての豊かな生活をもたらすと考えています。

〈ながくてスタイルは〉 いい日常性から生まれる観光交流



第4章 観光交流基本計画

1 基本方針

(1) 基本理念

① 目標

愛・地球博で培った交流とリニモで創り出された新たな交流からにぎわいが生まれ、豊かな自然や土、農とふれあい、心も体も健康になり、お互いに助け合うことで生きがいを持って充実した日々を過ごす幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまちを目指し、さらに、住んでみたい、ずっと住み続けたいと誰からも親しまれるまちを目指し、取り組みを進めています。

本市の住みよさの評価の基となる観光資源（地域資源）と良さを活かし、さらに発掘し、磨き上げ、そこで、「市民が快適に（住み心地よく）楽しく（ふれあって）暮らし、自ら住む地域に誇りを持ち、そして市民と来訪者が心豊かに交流し（ふれあい）、来訪者にとってもいい（居心地のいい）まち」にしていくことを目標とします。

目標像

あったかいふれあいのある、居心地のいいまち 長久手
“住んでみて！ 訪れてみて！ いいまち ながくて”

② 基本理念

「あったかいふれあいのある、居心地のいいまち 長久手」の実現のためには、市内の農や健康・福祉等のまちづくり活動によって生み出された地域資源と歴史・自然・文化等の観光資源を活かし、リニモ、N-バス等の公共交通とモリコロパーク等の交流基盤を最大限に活用し、市の既存施策や、日本一の福祉のまち実現に取り組む市民協働のしくみ、愛・地球博を通じて得た“おもてなし(ホスピタリティ)”の経験等を活かして、産学官民がパートナーシップを発揮し、継続的に「観光交流まちづくり」に取り組んでいきます。

推進理念 魅力を生かしパートナーシップで進める「長久手観光交流まちづくり」

(2)観光交流まちづくりの意義

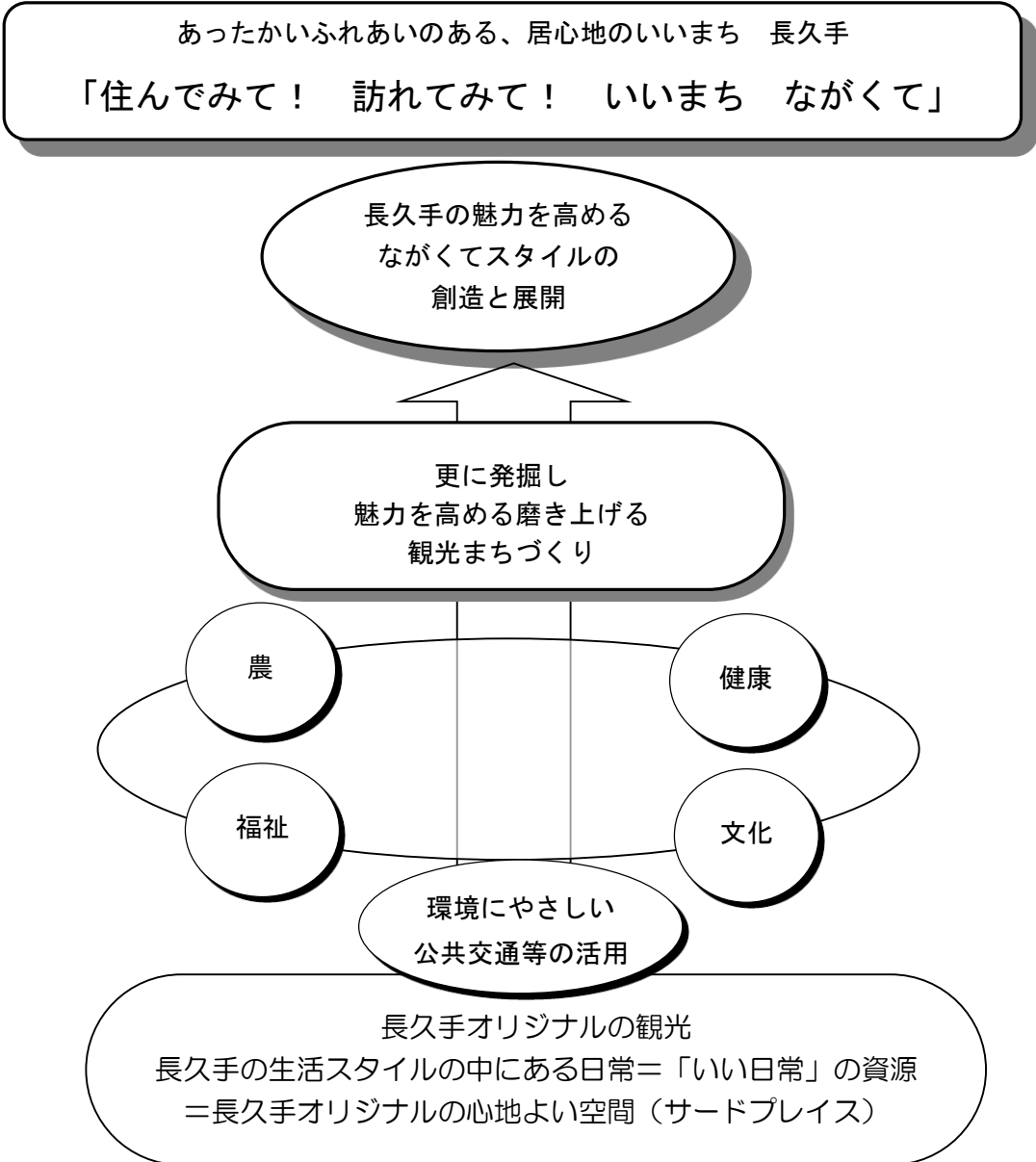
観光交流まちづくりの意義

本市で「観光交流まちづくり」を進めることにより、本市の魅力であり地域資源である農や健康、福祉、文化を発掘し、磨き上げ相互に関連づけながら、本市の魅力とオリジナリティを高めていきます。

これまで進めてきた、3つの柱である「ながくて体験学習プロジェクト」、「ながくて魅力発信プロジェクト」、「メイド・イン・ながくてプロジェクト」をふまえ、長久手オリジナルの観光資源とともに、長久手のライフスタイルをつくるもう一つのオリジナルな市民の「いい 日常」の資源を観光交流に活かし、「ながくてスタイル」を創造し、展開していきます。

観光交流まちづくりの意義 長久手の魅力をもつめるオリジナリティの発揮

図表6 市のオリジナリティと観光交流まちづくり



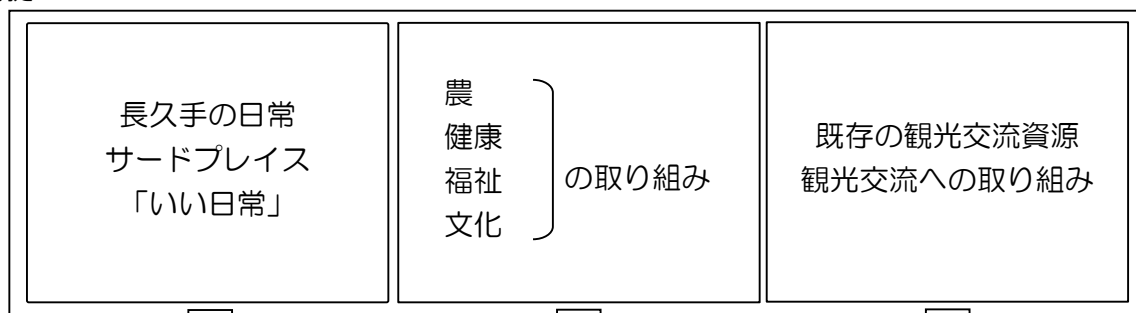
(3) 観光交流まちづくりの基本方向

本市には、独自のライフスタイル（おしゃれな店、田園風景のある暮らし・土や緑に触れる場所、ゆったりした時間を過ごせる公共空間、アートのある暮らしと空間、健康と福祉の空間など「心地よい一息できる場所」をもった日常の生活）があります。これが市外からの来訪者の人にとっては「いい日常」であり、体験してみたい長久手オリジナルな観光資源になります。

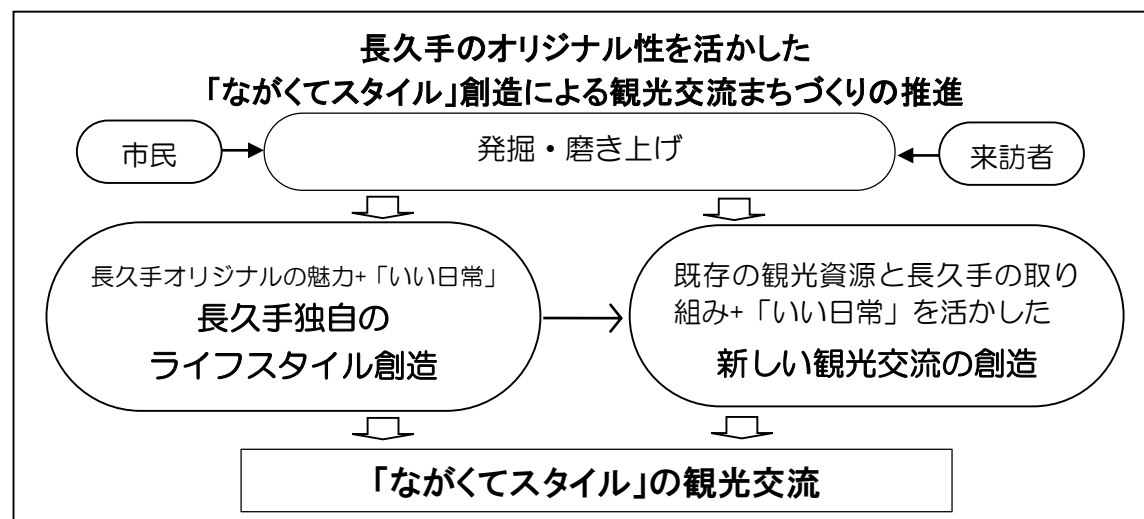
市民だけでなく、市外からの来訪者に、既存の観光資源だけでなく、このような「心地よい一息できる場所」＝「心地よい空間（サードプレイス）」を提供し体験してもらいます。このような体験を目指して、長久手を訪れてみたい、長久手に住んでみたいと思ってもらえる空間づくり、おもてなしと体験、市民との交流をあわせたまちづくりが「観光交流まちづくり」であり、これを長久手オリジナルの観光として展開していきます。長久手独自のライフスタイル「いい日常」をみがき上げ創造し、〈ながくてスタイル〉として提供します。ながくてスタイルとは、本市が発信するオリジナルなライフスタイルであり、新しい観光スタイルです。

図表 7 観光交流まちづくりの基本的考え方

前提



コンセプト



方向

- <空間づくり>
市内の体験のための移動手段として、環境に配慮した公共交通と自転車利用の促進
交流と情報発信と移動のためのターミナルとなるリノモテラス
- <システムづくり>
体験メニューとルート化・ネットワーク化、情報発信
移動のためのリノモとレンタサイクルシステム
- <しくみづくり>
観光交流推進会議（観光協会）と市民参画・協働、おもてなし

2 観光交流の推進方策

(1)ながくて「いい日常」観光の展開イメージ

市内のさまざまな観光ポイントを、「文化」や「農」等のテーマで編集し、公共交通（リニモ、N-バス等）とウォーキングや自転車を使って回遊するルートを設定します。

また、この中には、長久手のサードプレイスとなりうる場所（空間）と連携して、日常的に「いい日常」観光が体験できるルート展開イメージとして、以下のようなモデルを示します。

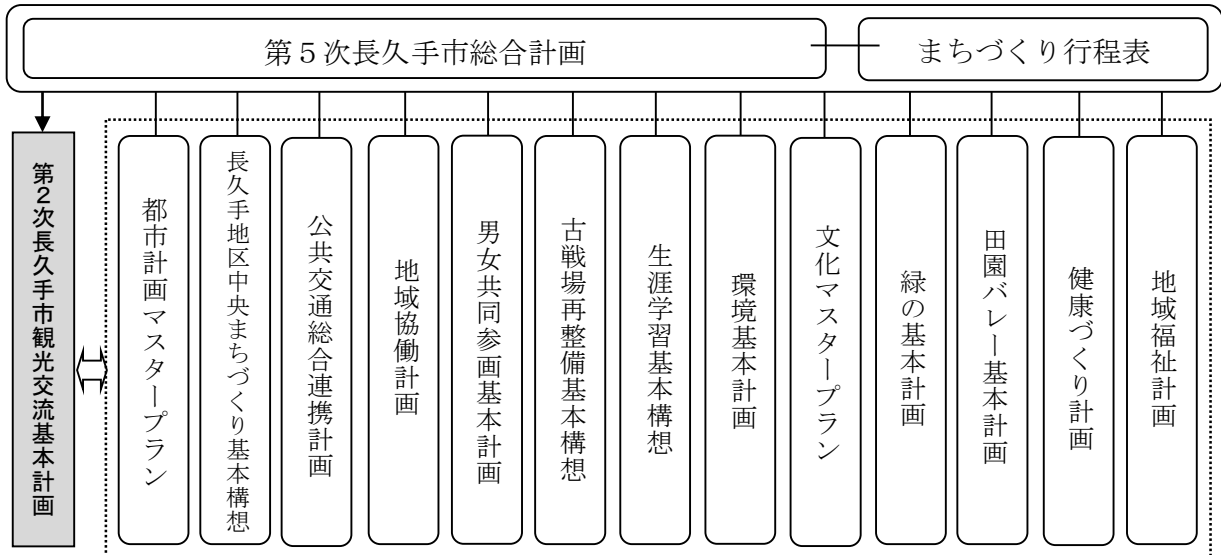
図表8 「いい日常」観光の展開イメージ



(2)市の関連計画との連携

観光交流の推進にあたっては、長久手市の上位計画との整合を図るとともに、他の関連計画と連携を持ちつつ観光施策を進めていくことで大きな効果を得られます。

図表 9 上位・関連計画



図表 10 長久手「いい日常」観光資源と本市の行政計画との関わり



3 推進に向けて

(1) 市民の参画と協働

観光交流を推進することは、市民の生活を豊かにするとともに、観光交流によるまちづくりの価値があがり、市民の誇りやシビックプライドの醸成につながるものです。このようなまちづくり全般に関わる事業や施策は、行政だけでなく、地域に関わる多様な市民、大学、企業、関係団体等との連携した取り組みがあってこそ、実現の力を持つものです。

特に、住みよいまち長久手のイメージと実態をさらに高めていくためには、市民、大学、企業、関係団体等のあらゆる分野からのアイデア提案も必要であり、今後ますます体験型の観光交流が期待される情勢において、長久手の特性であるおもてなしの心を発揮できる市民の参画・協働が不可欠です。



ながくての手における市民参画・協働

(2) 観光協会の発足に向けて

今後の長久手オリジナルの観光交流を推進していくためには、市民、大学、企業、関係団体等の活力とアイデア、さらに実行力のある民間の力が欠かせません。そのため、現在の本市観光交流推進会議を母体として、さらに民間活力を発揮できる組織として、長久手市観光協会（仮称）の設立を検討します。

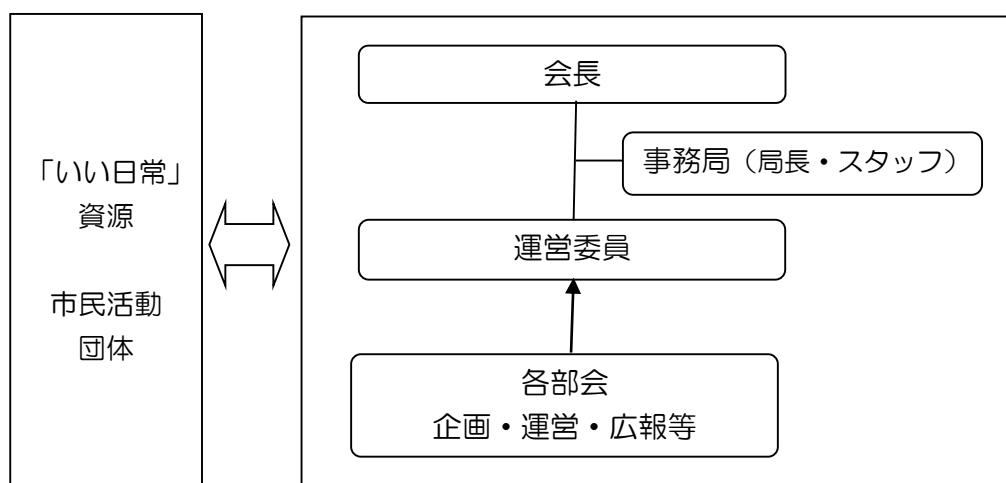
協会組織としては、非営利組織として市長を中心に置いて組織化する方法と、民間の力をより発揮させるために民間機関等から実績のある人材を登用するプロデューサー型の組織があります。観光交流という事業の内容、本市の他の組織等の例からみても、プロデューサー型の組織が、観光交流まちづくりを進めていくうえでは、より強力な推進が期待されることから、プロデューサー型をイメージした組織として検討していくものとします。

しかし、協会を設立した場合、その推進力を発揮させるためには、企画力とともに組織としての権限と資金力、さらには組織力が伴わなければなりません。全国各地域の観光協会が力を発揮できずにいる例も見られることから、協会設立時にすべてを達成できないとしても、会長一人で推進することは出来ないため、会長及び事務局長やスタッフがある程度の専任制を持って取り組むことのできる体制づくりを目指すものとします。

また、本市観光交流推進会議は、組織後約10年の実績と経験を持ち、長久手市内のみならず県内でも一定の実績を持つ組織であることから、観光協会へ発展する組織として期待されます。

さらに、市民、大学、企業、関係団体との連携、行政との連携を図りながら、長久手オリジナルの観光交流まちづくりを推進し、「住んでみて！ 訪れてみて！ いいまち 長久手」を実現していくものとします。

図表 11 長久手市観光協会（仮称）組織イメージ



図表 12 長久手市観光協会(仮称)の役割と取り組み

